

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2376600405
法人名	愛知県厚生農業協同組合連合会
事業所名	JA愛知厚生連 あつみの郷グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 3 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2376600405		
法人名	愛知県厚生農業協同組合連合会		
事業所名	JA愛知厚生連 あつみの郷グループホーム		
所在地 (電話番号)	田原市田原町築出35番地1 (電話) 0531-22-0283		
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成20年3月25日	評価確定日	平成20年5月13日

【情報提供票より】(平成19年12月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	13.53人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	階 ~	4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,600 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	日額	1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	JA愛知厚生連 渥美病院、花井歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体となる総合病院が新築移転したため、その建物を改造して老健やグループホームを含む複合施設として稼働している。開設から既に6年余が経過し、地域に必要な社会資源として認められる存在となっている。大きな連合会の経営によるものであり、安定した雇用関係が継続しており、離職者の数は極めて少ない。管理者は確固たる自らの信念を持っており、職員からも絶大な信頼を得ている。職員はほとんどが正規職員であり、チームワークもいい。体系的な職員教育システムが構築されており、年間計画に沿って教育が行われている。ホーム内勉強会で使用されたテキストを見ても、職員の知識レベルや介護技術は相当高いものと推測される。2つのユニットがそれぞれに大きな目的を持っており、一つのユニットの目的は「在宅への復帰」であり、他方は「現状の維持」である。その大命題の延長線上に利用者個々の介護計画を位置付けている。利用者および家族の満足度は非常に高い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	17年度、18年度ともに要改善指摘を受けていない。しかし、自ら改善点を抽出して取り組んできた。玄関周りの雰囲気づくりや床面の清掃等が取り組みの対象となっていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の制度をうまく使って、ホームの活性化につなげている。自己評価は職員全員で行い、共通の課題を拾い上げてミーティングで話し合っている。各評価項目に対して、先入観を持たないよう、ガイドブックは自己評価後に目を通している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議が開かれており、回によって若干の違いはあるものの、市の職員や地域の総代、民生委員、包括センター等、多彩なメンバーが出席している。利用者もほぼ全員が参加し、家族の出席も多い。その時々課題の討議だけでなく、「焼き芋会」や「餅つき大会」を同時開催して、和んだ雰囲気での推進会議となるよう演出している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者や家族の声をホーム運営に活かそうとの思いが強く、様々な取り組みを行って意見の集約を試みている。毎年1回家族を対象としたアンケートを実施したり、運営推進会議での発言を求めたりしている。意見箱の設置もあるが、苦情や要望はほとんど入っていない。外部評価の家族アンケートには感謝の言葉が連なっており、エレベーターの暗証番号の件を除けば、苦情やクレームの類は全くなかった。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会や商店街主催の地域のイベントには積極的に参加している。「市民館まつり」にはボランティア教室で作成した利用者の作品を出展している。隣接している児童センターとの交流も行われており、これがきっかけとなって市の児童課との連携もできた。建物の構造上の関係で、外部の人がホームを訪問しづらい点があり、今後の課題となる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	この地域に、グループホームは2事業所4ユニットが稼働しているだけである。地域の社会資源としての役割を担っており、事業方針の中にも「地域と密接に連携し、介護サービスの向上と充実に努める」旨が記載されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から職員に至るまで、この地域の認知症ケアの草分けであるとの意識とプライドを持っている。教育と現場での実践を通して理念は職員に浸透しており、地域からも信頼され、必要な存在となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のイベントには積極的に参加し、「市民館まつり」には利用者の作品を出展している。隣接している児童センターとの交流も行われている。		ホームが病院を改造したものであることや、4階の玄関まではエレベーターを利用することから、来訪者の往来には建物自体に構造的なハンデがある。難易度は高いが、近隣の住民やボランティアが、気軽に飛びこめる工夫をお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の制度をうまく使って、ホームの活性化につなげている。自己評価は職員全員で行い、共通の課題を拾い上げてミーティングで話し合っている。各評価項目に対して、先入観を持たないよう、ガイドブックは自己評価後に目を通している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に年間6回の運営推進会議が開催されており、参加メンバーも多彩である。毎回、利用者もほとんどが出席しており、議事録からも活発な会議風景が想像される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課の担当者が運営推進会議に出席していることから、ホームの現状や地域のニーズ等は共通認識ができています。この担当者以外とも連携の場面があり、隣接の児童センターの利用調整等も順調に行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ユニットごとに作成される「たより」が毎月家族に送られており、ホーム訪問時にも必要な情報が伝えられている。状態の変化や急用時には即座に電話対応が取られており、情報伝達に対する家族の満足度は極めて高い。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の声をホーム運営に活かそうとの思いが強く、様々な取り組みを行って意見の集約を試みている。毎年1回家族を対象としたアンケートを実施したり、運営推進会議での発言を求めたりしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少なからず利用者のダメージにつながることを理解されており、人事の異動を最小限にとどめている。職員はほとんどが正規の職員であり、年間を通して離職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の導入教育を始め、体系的な教育システムを構築しており、年間の計画に従って教育が行われている。ホーム内の勉強会も随時行われており、タイムリーな講義内容でレベルも高い。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地区の同業者との交流があり、ともに向上していこうとする方向性が見て取れる。当ホームが先発の開設であることから、他ホームに対しては指導的立場に立ち、助言を与えたり相談を受けたりしている。バスに同乗して旅行したこともある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの開始に当たっては、利用者に安心感を持ってもらうための取り組みに主眼を置いている。利用前に本人や家族にホームの見学をしてもらったり、利用開始後も、必要に応じて家族の来訪をお願いしている。生活環境が変わった利用者に、安心してもらうためである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掲示板に、センバツ高校野球に出場している地元の高校の次の試合の日程が書いてあった。テレビ観戦では、利用者も職員も気持ちを一つにして、一喜一憂しながらの応援である。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で得られた利用者の思いや意向を、職員間で共有して実現させようとの取り組みがみられる。利用者個々の「ライフレビューブック」が作成しており、得られた情報はその都度が書き足されていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎に大きな目的(介護方針)を持っており、あるユニットの目的は「在宅への復帰」であり、他方は「現状の維持」である。その目的の延長線上に利用者個々の介護計画を位置付け、カンファレンスで本人本位の計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの他に、利用者の状態の変化によって随時の見直しを行っている。利用開始から1週間目で作成した介護計画が、次の1週間で見直されて作り変えられている例もあった。見直し時には介護記録が点検されて、計画作成に反映されている。		記録や文書の一部に、「痴呆」の表記の残ったものが散見された。すべての文書や様式を総点検され、最新版管理を徹底されることを推奨したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	建物内には系列の老健や市からの委託事業の数々が同居している。施設を相互で有効利用し、利用者の作品を別フロアに展示したり、老健からリフトカー等を借用してドライブをしている。日帰り旅行には、レンタカー会社の協力でマイクロバスを借り上げ利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院を提携医としており、毎月1回の往診を受けている。他の医院をかかりつけ医としている利用者もあり、受診時には必要な情報を提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が大病院であること、ホームと同建物内に老健施設があることなどから、基本的には「看取り」をしない方針を持っており、利用開始時に家族にも伝えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「市民館祭り」には利用者の作品を出展したが、その際にもあえて作成者の名前を表記せず、ホーム名だけの対応とした。個人情報の取り扱いについて、ホーム内勉強会も行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「在宅への復帰」を目指すユニットでは、その日の過ごし方に対しても利用者の希望の表出がかなり多い。花見や買い物の話から、海外旅行にまで話題は進展した。可能な限り、利用者の意を汲んで行こうとの姿勢がみられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「在宅への復帰」を目指すユニットでは、利用者が職員に混じって食事の支度(調理)から配膳、下膳までを手伝っている。利用者が、食材の調達にも同行する。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時に入浴できるよう、午後と就寝前の2回、入浴のための時間帯を設定している。ほとんどの利用者は、1週間に2～3回程度の入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1年に1回の誕生日には、誕生会が開かれ、利用者の好きなものが食卓に並び、趣味やボランティア教室で作成した利用者の作品は、別フロアの展示スペースに飾られる。他人に見られるということで、利用者の張り合いもなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が許す限り散歩が行われており、散歩がてらの買い物や喫茶店での休憩もある。女性利用者には、化粧品の買い物の人気が高い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	大型複合施設ゆえの措置ではあるが、エレベーターは暗証番号を知らないと動かない。利用者家族からの唯一の改善意見は、「乗りやすいエレベーターへの工夫」であった。		現行のエレベーターシステムを変更することは無理であろう。であれば、鍵(暗証番号)は掛かっているにもかかわらず、いつでも自由に外との行き来ができるという雰囲気づくりを願いたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いで、年2回の防災訓練(避難訓練)を行っている。複合施設のため、同居する他の事業所との協力体制も作り上げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同居する老健の管理栄養士に依頼して、栄養価のチェックをしてもらっている。毎食の食事量を記録するだけでなく、水分の摂取についても意欲的に取り組まれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物からは家庭的なおい漂ってこないが、職員はソフト面でカバーしようと努力している。病院時代から使われている更衣ロッカーが入りに置いてあるが、職員は木目調の壁紙を貼って、柔らかな雰囲気づくりに余念がない。利用者と職員の共同作業による大きなタペストリーも完成まじかである		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、これまで家庭で使っていたものを極力ホームへ持ってきてほしい旨が伝えられている。古い家具(筆筒)を始め、馴染みの品物がそろっていた。自分で詠んだ和歌を書道の先生に清書してもらい、表装して飾ってある部屋もあった。		